



ならやまの風

R5学校だより第7号 (令和5年11月15日 発行)

文責 福西正剛

11月も半分が過ぎ、暖かい日が続いたかと思えば、先週末から冬のような寒さとなりました。暦の通り『立冬』は冬の始まりでした。

本校では小学校のスポーツフェスティバル後ごろからインフルエンザが猛威を振るい、学級閉鎖をするほどでしたが、今は落ち着いてきました。2学期後半も取組を進めますのでよろしくをお願いします。



【スポーツの秋】

10月6日(金)には中学部の体育大会、

10月21日(土)には小学部のスポーツフェスティバルを開催し、いずれも天候に恵まれた大会となりました。

今年は保護者の参観について人数の制限を設けなかったため、たくさんの方に参観いただきました。

●中学部の体育大会は、文化発表会の取組と並行して進めるなど短い時間の中での取組でしたが、笑顔いっぱいの素敵な大会となりました。

何より久しぶりの応援合戦では9年生が7年、8年をリードし力強く応援合戦をしてくれたことをうれしく思っています。



9年生があんな短時間に下級生をどのように巻き込んだのか、とても興味深く思いました。おそらく教員の働きかけもあったと思いますが、9年生は決して強引に下級生を引っ張ったのではなく、人を巻き込む魅力を持っていたのだと思っています。

●小学部のスポーツフェスティバルもそれぞれの学年で趣向を凝らしたプログラムがあり、とても盛り上がりました。また、高学年の放送係や準備係などの係活動も一生懸命に取り組んでおり、その逞しさに心強く感じました。

いずれも保護者の皆さまの温かいまなざしと声援に後押しされたのだと思っています。



【困っていたんだね。悩んでいたんだな。】

小学部の中休みや昼休みには、運動場で鬼ごっこをしたりドッジボールをしたりする子がいれば、教室で折り紙やお絵描きなどをしたりする子もいます。また、友だちと楽しげにおしゃべりしている子もいます。

そして、その20分ほどの休み時間が終わって教室に戻る子どもの様子には、いっぱい遊んで満足げな子もいれば、今にも泣きそうな表情で戻ってくる子もいます。何かあったんだなとすぐに分かります。

休み時間をどのように過ごすのかは、それぞれに与えられた時間なので自由なのですが、集団の中に入ると自分の意に沿わないことはよくあります。

自分と相手がいれば、必ずしも正解が一つとは限りません。それぞれに正解があり、相手にとっては正解ではないこともあるということです。

意に沿わないことや意見の食い違いがあったときに、「それは違うだろう」とか「私は・・・と思う」と言えたらいいのですが、子どもにはそのような力はまだ十分についていません。ましてや先生や親に真正面から自分の気持ちを言ったり伝えたりすることは容易なことではありません。

大人が話を聞ける雰囲気を作ってあげないといけないのかもしれない。

何らかの方法で自分の気持ちを伝えて、分かってもらえるとよいのですが、我慢してしまう

とストレスとなり、そのような我慢が続くことは決して良いことではありません。

それぞれが困っていることや悩んでいることに対して、少なくとも「わかってもらえた」と思えることが「聞いてもらってよかった」につながっていくのだと思います。

だから「・・・に困っているんです。」と相談されたら「そうなんだね。困っているんだね。」とまずは理解することから始めたいと思います。

大人は多くの経験から、すぐに解決に向けての答えを与えてしまいがちです。しかし、与えられてばかりでは、自分で解決していく力は育ちにくいと思うのです。

私は、子どもから相談を受けたりしてもすぐに答えを出さないように努めています。大人にとっては、すぐに答えを出す方が簡単なのですが、ぐっと我慢して『聞くこと』『理解すること』に徹したいと思っています。

【子どもたちの安全で安心な環境の構築のために】

19年前の平成16年11月17日、奈良市女兒誘拐殺害事件が起こった日です。毎年奈良市では二度と同じようなことが起こらないようにと「子ども安全の日の集い」を開催し、学校関係者、保護者、地域、行政がいっしょになって子どもの安全安心について考える機会を設けています。

今年は11月12日（日）に行われ、校区少年指導協議会の方々と参加してきました。

第2部では奈良学園大学の松井典夫先生から「学校安全の教訓を伝承し、次代の命へとつなぐ学校危機マネジメント」についての講演がありました。

全国各地で活動されている見守りの組織づくりが、奈良市女兒誘拐殺害事件をきっかけに全国的に広がったこと、見守り団体の後継者の問題に触れ、継承していくことの大切さを伝えてくださいました。また、次のように仰いました。

ジャケットを着て登下校を見守る地域の活動は最大の抑止力になる。しかし、海外の登下校のようにスクールバスでも出さない限り十分ではない。見守り活動や警察のパトロールに加えて、子どもたち自身が危険を察する力や自分の身を守る力を育てなければならない。

本校では、避難訓練や交通安全教室を実施し安全安心にかかわる取組に加え「いかのおすし」について話をしています。

子どもたちがそのような場面に遭遇したとき

に適切に行動するための訓練はしていませんが、安全安心について知識として身につけていることで、少しでも危険を察したり、危険を回避できたりする力を身につけてほしいと思っています。

改めて、「いかのおすし」をご家庭でも話題にさせていただいたら嬉しいです。

【いか・の・お・す・し】

- ・知らない人にはついて**い**かない
- ・知らない人の車に**の**らない
- ・連れていかれそうになったら**お**お声を出す
- ・危険を感じたら**す**ぐにげる
- ・すぐに大人に**し**らせる

また、本校は安全安心の確保に向けて次のことを徹底していきます。

- ・登下校時間帯以外は、門を閉めた状態にする。
- ・来校者にはインターフォンを通じて入校の許可を得てもらってから入校していただく。
- ・来校者には身元の確認をする。そして入校証をつけてもらう。
- ・入校証のない方には、必ず声掛けし着けていただく。

そして、保護者の皆さまに次のことにご協力いただきますようお願いいたします。

- ・来校時は必ずネームホルダーを付けてください。
- ・入校の際には、インターフォンでお知らせください。
- ・持ち物を届けに来てくださったときは、職員がお預かりすることを原則とします。
- ・お子様の防犯ブザーの音かなるかどうかを定期的に確認してください。（小学部）
- ・ツイタモンの交換電池をお渡ししたときは交換してください。（小学部）

○地域の方からの要望で標識やカーブミラーが設置されました。



【地域の皆さまへ】

10月29日（日）に市内各地で行われた奈良市総合防災訓練が本校区でも行われました。ならやま小中会場では新旧の生徒会執行部が避難所受付のお手伝いをさせていただきました。



また、旧右京体育館会場では、ならやま子どもクラブで子どもたちが「大声コンテスト」や「防災クイズ」などに挑戦しました。